美濃市将来の学校のあり方検討会　教育視察（１）

令和５年10月10日(火)10:00~12:00

訪問校：白川村立白川郷学園（義務教育学校）

説明者：白川村教育委員会 教育長・課長補佐、白川郷学園校長・副校長

【検討委員会 訪問者 ７名】

【美濃市教育委員 １名】

【美濃市教育委員会 事務局５名】

【日程】　１　学校説明　　２　校内視察　　３　質疑応答

【説明のあった主な内容】

●学校教育について

1　15歳の「ひとりだち」に責任を持つ教育実践を心掛けている

2　2011年から小中一貫校、2017年から義務教育学校 … 児童生徒の成長歴に責任を持つ

3　中学生が英語を使って村内観光案内をするなど、使える英語教育実践を重視。

4　飛騨教育事務所指定の教育研修校として、教員が研修を重ねている。

5　縦割り班を結と言い、「結クラスウィーク」の時は朝から帰りまで結班で過ごす

6　低（１～４年）、中（５～６年）、高（７～９年）のブロックで指導体制をとる

7　いじめはあるが不登校はいない。いじめの65％は登下校中に発生。

8　独自のカリキュラムはなく、学習指導要領に沿った指導計画で実践している

9　令和５年度の教科担任率は63％。音、社、体などの教科で実施
　小１学担が９年生の国語を教えている。大変だが全校生徒に関わるのは良い
　すべてを教担制にするわけではなく小1～2年生は学担指導の授業が多い

10　小１から年35時間、all Englishの英語の時間を実施している。

11　入学式は小１。卒業式は中３。小６の修学旅行は実施。

12　体験を通して学ぶ「村民学」（結作業への参加、ポイ捨て美化活動など）が有意義

●地域の教育力について

13　村民の学校への関わり方に課題はあるが、村民は皆学校教育目標が言えて協力的

14　学校運営協議会は学校に協力するスタンスではなく独自の活動に取り組んでいる

15　村内の児童生徒数の減少は他市町村と比べて小さく、今後の減少も小さい見通し
　本年4月1,490名の村人口は30年後も1,200名程度で、大きな減少はない。

美濃市将来の学校のあり方検討会　教育視察（２）

令和５年10月30日(月)10:00~12:00

訪問校：北方町立北学園（義務教育学校）

説明者：北方町教育委員会 教育長・教育課長、北学園校長

【検討委員会 訪問者 4名】
【美濃市教育委員 2名】
【美濃市教育委員会 事務局4名】

【日程】　1　学校説明　　2　校内視察　　3　質疑応答

【説明のあった主な内容】
●学校教育について
1　大規模なため1～9年生の縦割り活動は難しいが5～9年生による児童・生徒会で活動
2　1、3、5、7、9学年のペア学級もつくっている（同様に2，4，6，8年も）
3　地域教材を活かした「北方科」の学習を実施し、その中での活動も工夫している
4　小中一貫教育が今後の教育の方向性を示しており、その実現を目指した
5　小5、6年生にも教科担任制を取り入れた
6　小中9年間一貫教育というより、0～15歳の15年間一貫教育として考えている
7　地域、個人によって意見は様々で、町民対話集会に出かけて説明し意見を聞いた
8　説明会の対象は8，9年生の保護者を対象にした。
9　義務教育学校の魅力を理解しつつも、大事な時期の変更に不安を抱く保護者もあった
10　市民と顔を見て直接話し合うことで伝わることを大切にした
11　市の広報には、義務教育学校への移行情報を毎月載せた
12　専科教員の指導する体育の授業が楽しくて仕方がない6年児童もいる
13　発達段階の違いで楽しさの質も異なる。クリスマス会は低、中、高別に開催
　　低学年…1～4年　中学年…5～7年　高学年…8～9年

●地域の教育力について
14　これからの学校運営には、地域の皆さんの理解と協力が必要不可欠となる
15　1，2年生が早帰りするような日も、地域の方の見守りがあることで安心できる
　　集団登校はしていない　帰宅時刻は学年で異なるため、地域の見守りは心強い
16　地域の皆さんに理解をいただくため、誰もが学校参観できる日を設けている

美濃市将来の学校のあり方検討会　教育視察（3）

令和5年11月8日(水)13:30~16:00

訪問校：本巣市立根尾学園（義務教育学校）
説明者：本巣市教育委員会 教育長、学校教育課長、根尾学園校長

【検討委員会 訪問者 7名】
【美濃市教育委員 3名 】
【美濃市教育委員会事務局 5名】

【日程】　1　学校説明　　2　校内視察（インフルによる学校閉鎖）　3　質疑応答

【説明のあった主な内容】

●義務教育学校設立に向けた社会背景について（教育長）

1　一度もクラス替え経験のない子どもたち … 縦割り活動グループ替えならできる
2　未来に向けて理想的な学校をつくりたいと願った
3　国、県、他自治体に惑わされず、根尾の現状と課題に合った学校を構築したい
4　一人一人の子どもを自分の人生をつくる主体者にする ➡ 自己選択と自己決定が重要
5　自分で納得解・最善解を導くことができる子供に育てたい
6　若者に多い自殺やひきこもりの現状を見ても、心と体の健康がいかに重要か分かる
7　生徒の持久力が劣るのは、すぐあきらめるから　親も先生も頑張らせようとしない
8　運動と食事は園と学園で責任を持ってやり、幸せに生きる主体者を育てたい
9　幼保では自らやる子を育てているが、小学校は先生の言うことをきく子を求める
10　子どもたちは授業で我慢している　「もっとやりたい」「もっと話したい」のだ
11　長い先生の話が、子どもの学習意欲を削いでいる　子どもは我慢しているだけ
12　「人のいう事をきく子」では社会を生き抜く人間になれない
13　本当にこの社会を生きていける子にしなければならない
14　そのために、子どもの声を聞き子どもの求めているものは何かに目を向けたい
15　画一教育の弊害 … 自己決定・自立を忘れてしまった子どもの姿
16　国際比較を見ても、自立できていない日本の若者の姿が顕著に表れている
17　学校ではもっと議論をして主体的に学習を深めていくことが大切
18　明治から続いてきた教師主導の指導方法を変えるのは大変だが、今が変える時

●義務教育学校の経営について（校長）

1　本学園で大切にしていること
　①　学校らしくない学校にすること
　②　子どもが幸せな学校をつくること
　③　子どもの変化に気付く力を教師が身に付けること
　④　子どもも教師もデジタルシティズンシップ(※)を身に付けること
　　※デジタル技術を利用して社会参画する能力（技術や心構え）のこと
2　縦割り集団で朝の会を行う日もあり、形にとらわれないで一日が始まる
3　１年生から教科担任制を導入　国語や算数は学級担任が指導
4　以前は教師が週28時間の授業をしていたが、学園では週20時間程で空き時間もできた
5　教師が学ぶ機会を保障しなければいけない　最先端の授業を見に行く機会も必要
6　子どもの主体的な学びによって、先生が教えられないレベルにまで生徒は育つ
7　根尾学園だからできる学びを大切にしている
8　高校生になって学校を中退する子にならないよう、生徒は主体的な学びを身に付ける
9　年間70名を超える地域の方が学園に来て下さる
10　異年齢集団は生活場面で有効なだけでなく、探究の時間などの学習でも活用できそう